

九州民放クラブ活動だより

「小型衛星」打ち上げ拠点に決定

大分空港

矢野 建三（OBS）

九州民放クラブ大分は、コロナ感染症の影響で昨年の活動を自粛した。地域の話題を紹介する。

航空機を利用して小型衛星を打ち上げる拠点に大分空港が選ばれた。宇宙ビジネスを手掛ける米国の企業が大分県と提携して事業を立ち上げるもので、衛星打ち上げは、2022年に開始する予定。経済の波及効果が期待されている。



大分空港
(大分県提供)

大分空港は県の東部、国東半島のつけ根に位置し、大型機が離発着できる3千メートル級の滑走路を備えていることがスペースポータル「宇宙港」の決め手になった。

更に、鉄鋼、石油化学、自動車、半導体、など製造業の基盤が整っていることも追い風になった。

計画によると特別に改装したボーイング747「ジャンボ機」に小型衛星を格納したロケットをつり下げ、空港を離陸したあと、太平洋上でロケットを発射、宇宙空間でロケットから衛星を切り離す。地上からの垂直打ち上げと比べ、「切り離す地点」を柔軟に設定できる利点がある。

小型衛星は、気象観測や位置測定、通信など幅広い分野で利用が見込まれており、将来的にはアジア地域の需要を全て引き受ける体制を目指す。

一方、大分県は、空港周辺地域の活用や機体整備関連施設の建設など地元新たな雇用が生まれる可能性がある。また、衛星製造への参入や関連企業の県内誘致などに期待している。

更に、ロケットの打ち上げ関連施設を見ようと多くの見物客が訪れるとあって、空港周辺に点在する仏教寺院の観光や由布院、別府などの温泉地への波及効果も見込まれている。

経済が停滞する中で、関係者の期待は膨らんでいるが、具体的な事業計画はこれから明らかになる。

時代の先端をいく新しい宇宙ビジネスは、激しい競争の分野であり、県経済の安定成長に結びつけるためには、中・長期的な戦略が必要である。



ロケットを切り離すヴァージン・オービット社のジャンボ機
(同社提供)

「スポーツランドみやさき」

緒方 輝文（UMK）

ジャイアンツが宮崎でキャンプを始めたのが1959年。

以来、一年中温暖な気候でしかも本格的なスポーツ施設を有する本県は、「スポーツランドみやさき」を提唱し各種スポーツの誘致に力を注いできました。

その甲斐あって現在ではプロ野球はもとより、Jリーグ、ラグビーチームなどのキャンプ地としてまたゴルフやサーフィンなどの合宿地としても定着しています。

中でもプロ野球は県下で6球団がキャンプを行っており、その内3球団（ジャイアンツ、ソフトバンク、オリックス）が同時にキャンプをするのは全国でも宮崎市だけです。またトーナメント開幕当初

のアクサレディス、世界のトッププロが集結するダンロップフェニックス、LPGAの最終戦を飾るツアーチャンピオンシップリコーカップなどメジャーなゴルフトーナメントも開催されており、県民の選手に対する歓迎や応援、感謝の気持ちには熱いものがあります。一方で、県民自体も社会人野球やゴルフ、テニスなどの愛好者も多く、幅広くスポーツを楽しんでいます。

私たち「民放クラブ宮崎」にも同好会がいくつもあります。その一つのゴルフ同好会は猛暑の8月を除いて毎月1回定例のコンペを行っています。会員は現在16名ですが特別な事情がない限り皆さん進んで参加をされます。

特筆すべきはMRT出身の小玉一さんで御年87歳ながら毎回の参加で、会員の羨望と目標になっています。小玉さん曰く「広々とした芝生の上でのプレーは気持ちが良いし、健康維持にも随分役に立っている」とのこと、いつまでも若々しい所以ですね。

宮崎は一年中ゴルフができます。冬場、ゴルフができなくてウズウズしているらっしゃる全国のゴルフ好きの会員の皆さま、是非宮崎にお越しいただき、存分にゴルフをお楽しみください。心よりお待ちしております。